

第 I 部

サイン基本構想

1. 北広島町の地域特性
2. 北広島町の屋外サインの現況と課題
3. サイン計画の目標と対象
4. サイン基本構想

第 I 部 サイン基本構想

1. 北広島町の地域特性

1-1. 地域景観の現況

北広島町は太田川と江の川の二つの水系から成る。太田川水系では「聖湖」、「八幡高原」、「芸北高原」、「豊平丘陵」が小水系を構成し、湖と緑の自然景観、農地と集落が点在する広がりのある高原の景観、起伏に富んだ丘陵の景観が形成されている。

江の川水系では「大朝・八重盆地」が広がり、山陰山陽を結ぶ街道沿いに集落、市街地が発達している。

表 I-1. 地域景観の概況

区分		概要
太田川 水系	八幡高原	整った田園、農家、牧場が点在するのびやかな高原の景観が広がり、西日本最大の湿原群がある。
	聖湖	湖水と周辺の緑、背景の臥龍山が調和した自然景観がある。
	芸北高原	千メートル級の山々を背景に、牧場、農地、集落が点在する自然豊かな高原の景観が広がっており、スキー場が複数立地している。
	豊平丘陵	周囲を山に囲まれ、起伏に富んだ丘陵に集落、棚田などが点在する。
江の川 水系	大朝・八重盆地	江の川沿いに市街地・集落が形成され、千代田インターチェンジ周辺では商業・業務・産業機能が立地し、市街地景観が形成されつつある。



「のびやかさを感じさせる高原の景観、日本の農山村の原風景の一つ」

図 I-1. 八幡高原の景観

芸北高原
「牧場、田園、集落など
自然豊かな高原の景観」



大朝・八重盆地 (大朝)
「山なみが遠くに見える
広がりのある盆地の景観」



大朝・八重盆地 (千代田)
「高速道路出口から見る
市街地の景観」



豊平丘陵
「起伏に富んだ丘陵に点在
する集落、棚田の景観」



図 I -2. 北広島町各地の景観

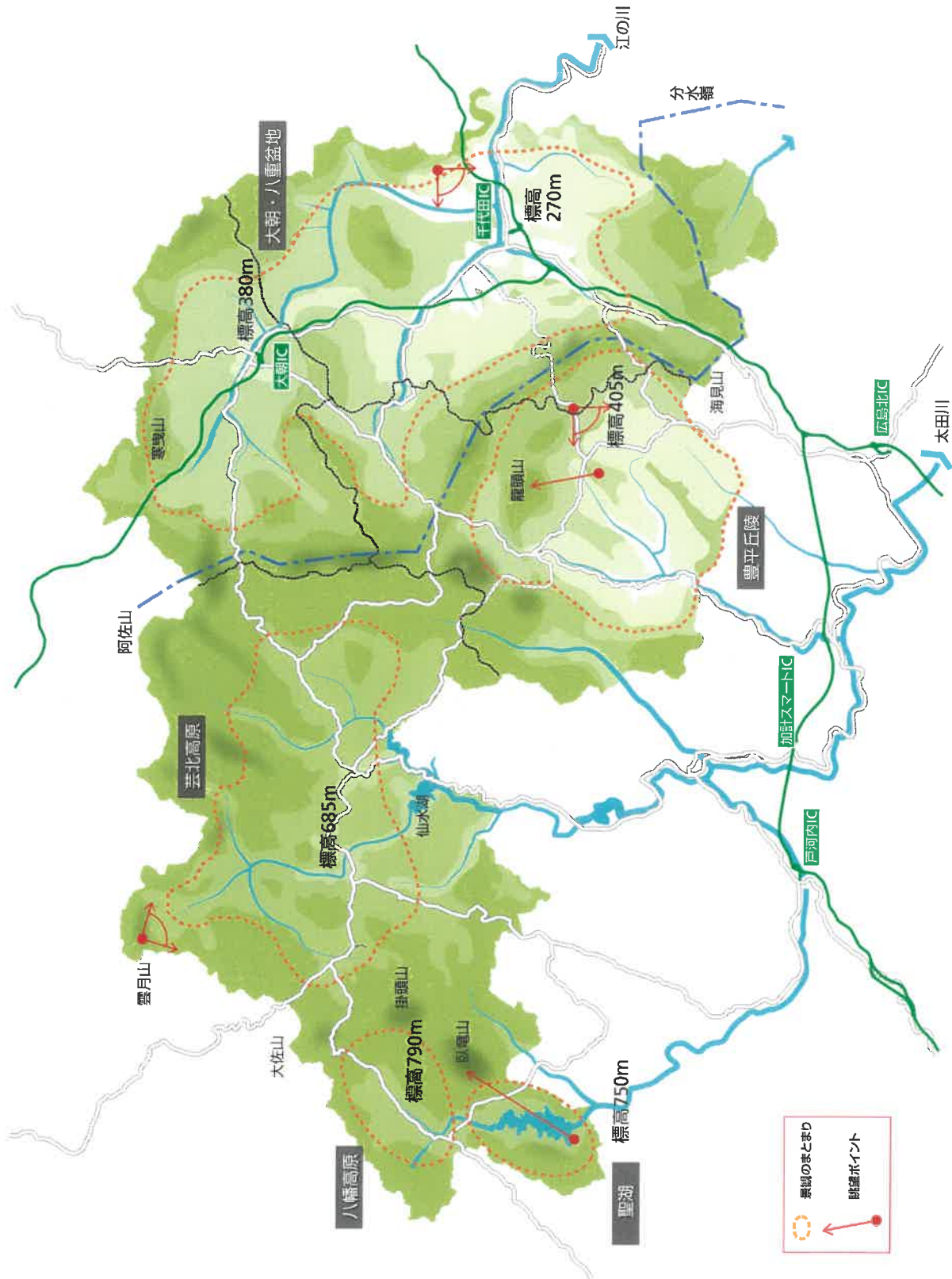


図 I-3. 地域景観の現況

1-2. 観光資源の現況

北広島町はスキー場、温泉、名水、桜、蛍、湿原、高原など四季折々の観光資源に恵まれており、神楽や世界遺産に登録された「壬生の花田植」、国の名勝吉川元春館跡庭園などの歴史文化資源がある。観光資源は芸北、大朝、千代田、豊平の各地域に立地している。

道の駅 舞ロード千代田IC、道の駅 豊平どんぐり村、わさ〜る産直館などの交流施設を始めとして広域からの集客を拡大することが観光振興上の課題となっている。



図 I -4. 道の駅 舞ロード千代田IC



図 I -5. 道の駅 豊平どんぐり村



図 I -4. わさ〜る産直館

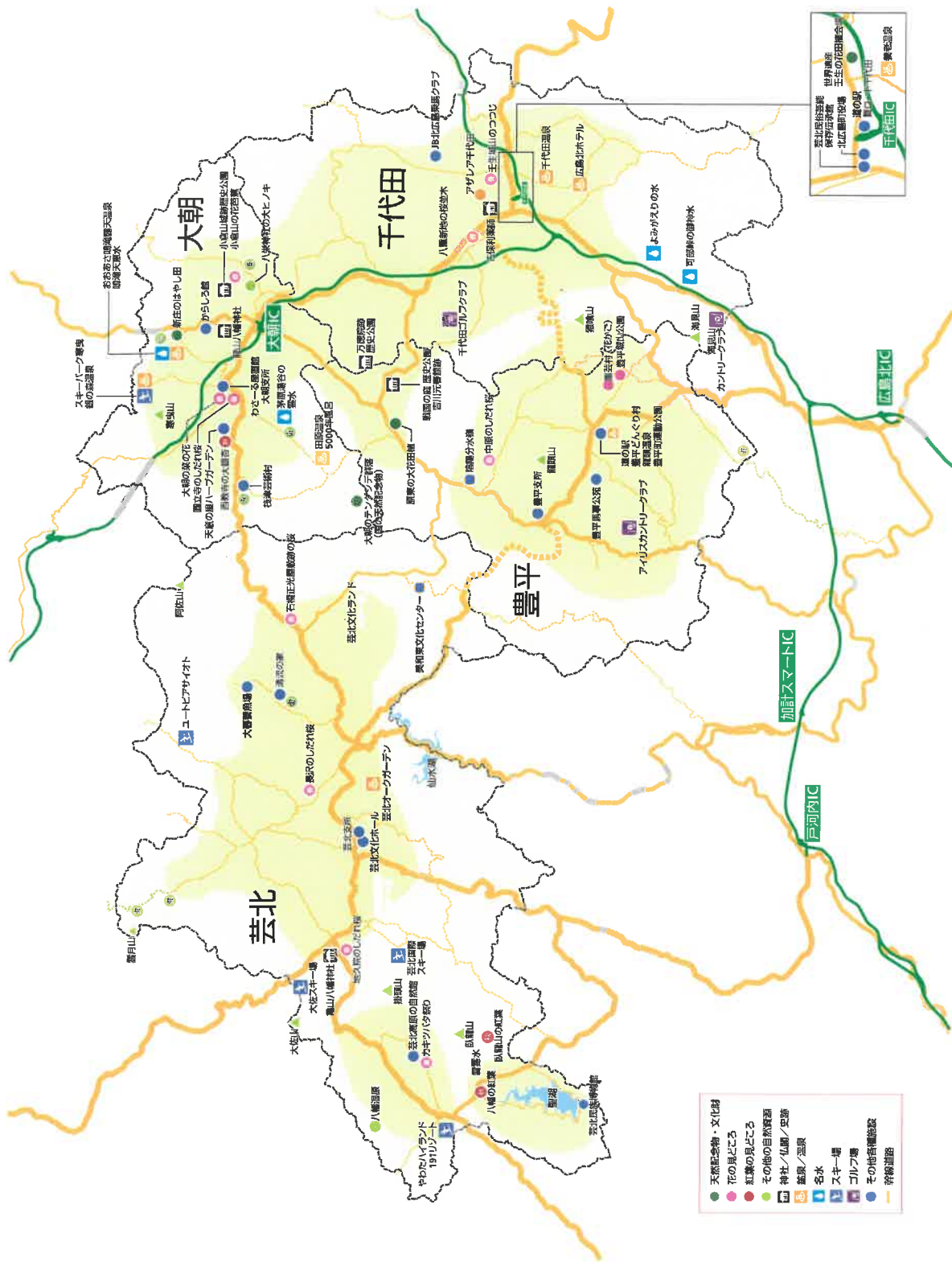


図 I-7. 観光資源の現況

1-3. 観光資源への交通アクセスの現況

北広島町の観光資源は芸北西部、芸北東部、大朝、千代田、豊平の5地域に分散的に立地しており、これに応じて主要な交通アクセスも形成されている。芸北地域では戸河内ICを經由し国道191号、県道11号および国道186号が主要なアクセスルートになっている。豊平地域では広島北ICを經由し国道261号、県道40号が主要なアクセスルートになっている。また、大朝地域、千代田地域では各々大朝IC、千代田ICからの直接的な交通アクセスが可能となっている。北広島町の観光振興を図るためには、「道の駅 豊平どんぐり村から八幡高原」「道の駅 舞ロード千代田ICから芸北地域」「芸北地域から大朝地域」「千代田地域から豊平地域」といった、町内における来訪者の回遊を促す工夫をしていく必要がある。

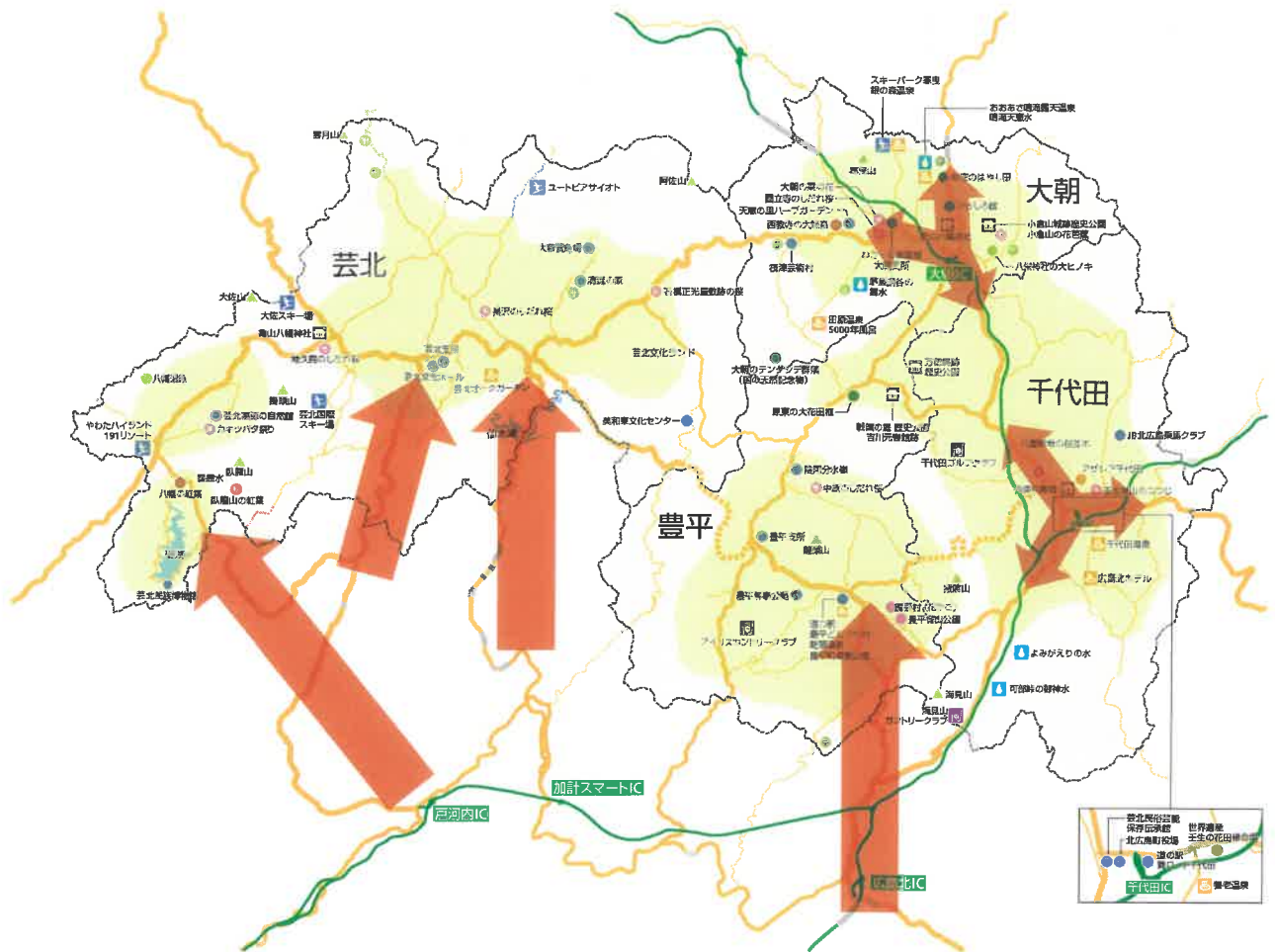


図 I - 8. 観光資源への交通アクセスの現況

1-4. 観光客の特性と行動パターン

既往調査（平成19年実施）によって、北広島町の典型的な観光客は、「広島市内もしくは県内に住む中高年で、自然の風景やドライブを楽しむ家族づれであり、リピーターが約7割」であることが報告されている。

また、既往調査（平成19年実施）では、「道の駅 豊平どんぐり村」などに来訪する観光客が町内他施設を訪問せずに帰宅する傾向が伺えることから、観光客の増大を図りつつ、観光客を町内の他の観光施設に適切に誘導し、観光客の回遊性を高めていくことが課題となっており、「もう一箇所行ってみよう」と思わせる情報提供や案内・誘導が求められている。

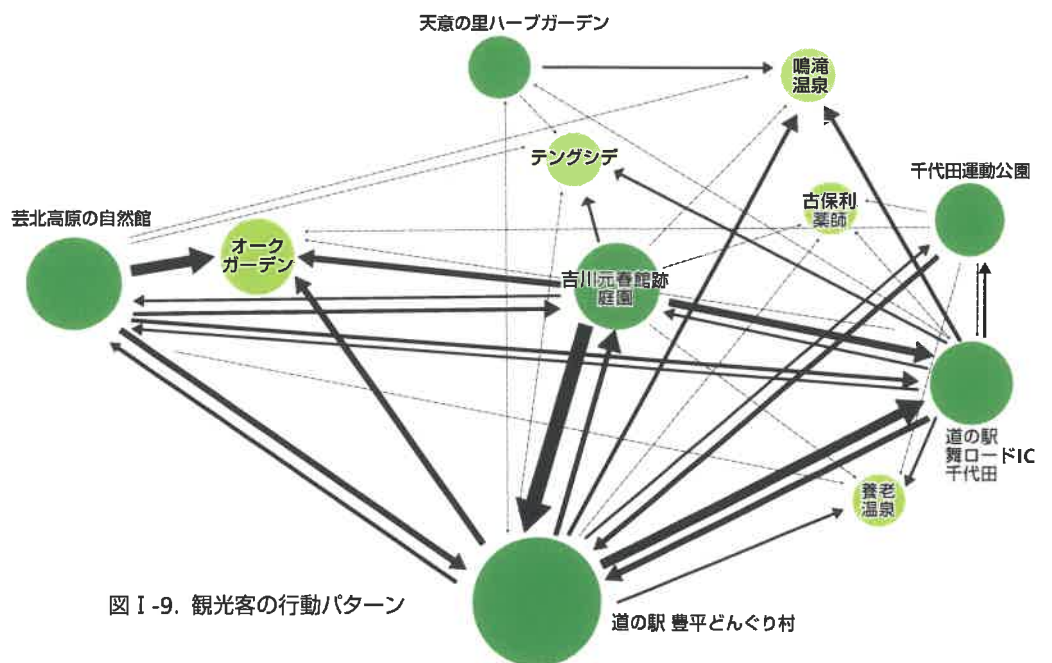


図 I-9. 観光客の行動パターン

表 I-2. 観光客の町内他施設への訪問傾向

区分	回答者数 (A)	町内他施設を訪問 (複数回答) (B)	町内他施設への訪問傾向 (B/A)
吉川元春館・戦国の庭 歴史館	194	194	99.5%
天意の里ハーブガーデン	53	45	84.9%
千代田運動公園	131	64	48.9%
道の駅 舞ロードIC千代田	161	151	93.8%
道の駅 豊平どんぐり村	401	170	42.4%
芸北高原自然館 (八幡温泉)	228	161	70.6%
合計	1,168	784	67.1%

注 : 平成19年11月23日(祝日)~25日(日)、10~16時調査、図中の緑色で示す地点6箇所で開催
 問「今回、訪問される施設を全て選んでください」、図中の11施設を選択肢として提示、複数回答
 出所 : 戸田常一他「広島県北広島町における観光資源の評価と活用方策の検討」平成20年3月(平成19年
 度広島大学地域貢献研究事業)にもとづき再集計、再作図

第 I 部 サイン基本構想

2. 北広島町の屋外サインの現況と課題

2-1. 屋外サインの現況

「屋外広告物現況調査」(平成22年度、商工会青年部実施)により町域内で3,300件の屋外サインが確認された。同調査の結果をもとに、屋外サインを分類し特徴を把握した。

(1) 地域別の設置状況

旧町別の設置状況を見ると、旧千代田町が最も多く(1,065件)、次いで旧芸北町(917件)、旧豊平町(821件)、旧大朝町は562件と少ない。

(2) サインの種類・表示内容

サインの種類(表示内容)について、以下のような目的・性格により分類した。全体では、「3 施設・観光地・店舗広告」が最も多く約38%、次いで「1 注意・禁止・啓発」が約26%、「2 交通情報(誘導・路線案内等)」が約24%、「4 施設名・地名・河川名等表示」が約11%である。

表 I-3. 屋外サインの表示内容

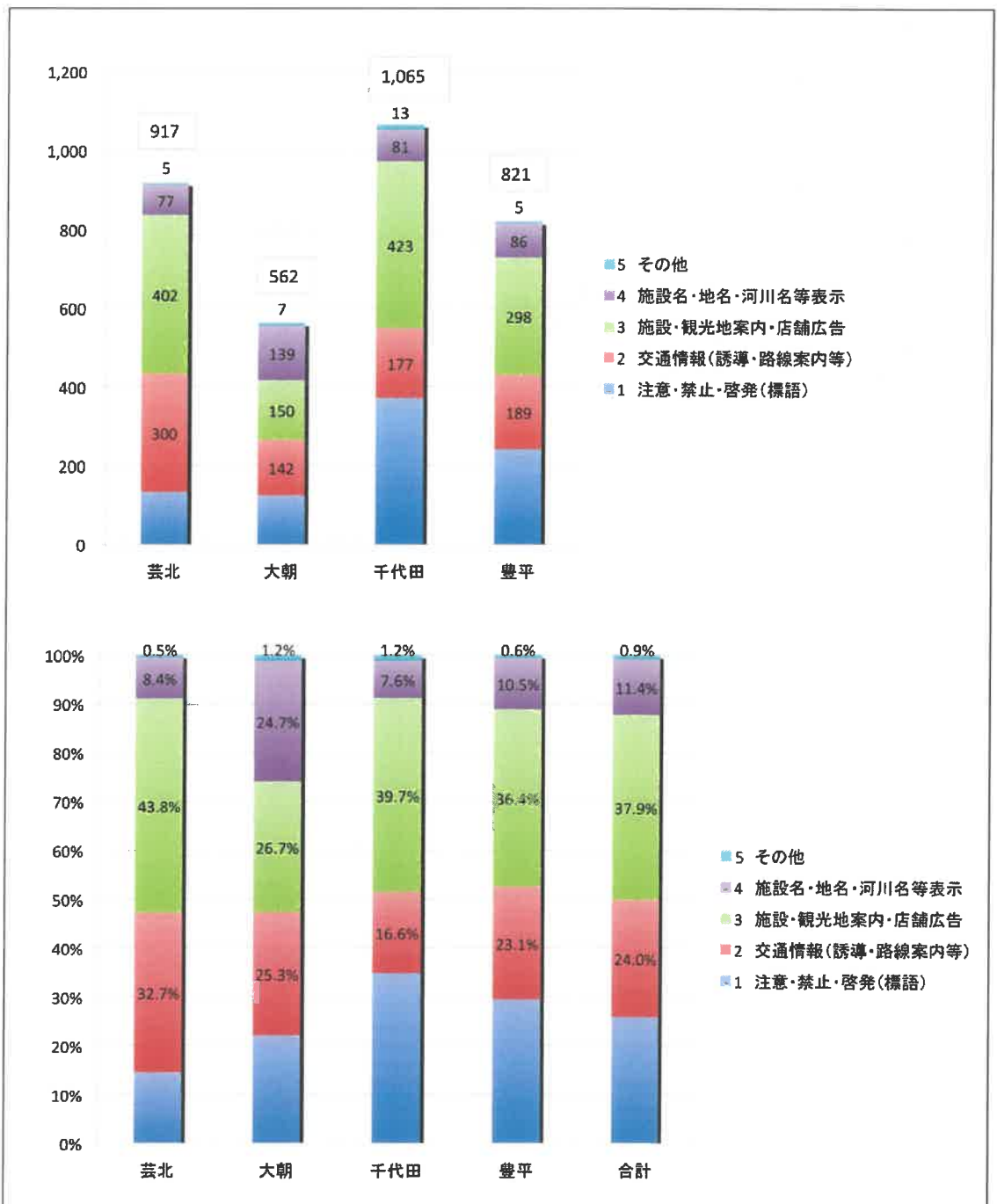
種類	事例
1. 注意・禁止・啓発	・啓発標語、ゴミ投棄等の禁止、通学路、交通安全、自然保護等の呼びかけ、保安林等
2. 交通情報(誘導・路線案内等)	・道路標識(経路案内、地点案内)、交通上の警戒・指示
3. 施設・観光地案内・店舗広告	・観光地・名所・スキー場・宿等の案内、JA・JP・店舗等の広告
4. 施設名・地名・河川名等表示	・公共施設・小学校・病院・寺社等の場所表示、バス停・防火水槽、河川名等の表示、事業の説明など

表 I-4. 屋外サインの設置状況

	芸北	大朝	千代田	豊平	合計
1. 注意・禁止・啓発	133	124	371	241	869
	14.5%	22.1%	34.8%	29.4%	25.8%
2. 交通情報(誘導・路線案内等)	300	142	177	189	808
	32.7%	25.3%	16.6%	23.1%	24.0%
3. 施設・観光地案内・店舗広告	402	150	423	298	1,273
	43.8%	26.7%	39.7%	36.4%	37.9%
4. 施設名・地名・河川名等表示	77	139	81	86	383
	8.4%	24.7%	7.6%	10.5%	11.4%
5. その他	5	7	13	5	30
	0.5%	1.2%	1.2%	0.6%	0.9%
合計	917	562	1065	819	3,363

地域別には、千代田町で「1 注意・禁止・啓発」の比率が高く「2 交通情報(誘導・路線案内等)」の比率が低い。一方、芸北地域では「2 交通情報(誘導・路線案内等)」の比率が高く「1 注意・禁止・啓発」の比率が低くなっている。大朝地域では「4 施設名・地名・河川名等表示」の比率が高いが、その約1/3は防火水槽・消防水利関係である。

図 I -10. 地域別のサインの設置状況



各地域の特徴を見ると、人口の集積する千代田地域では交通安全・ゴミ捨て注意・環境美化などの注意喚起や啓発に関するサインが設置数・比率とも高く、また、施設案内(広告)も地域内の施設・商店等が目立っており、比較的地域住民の日常的な活動を対象としたものが多いと考えられる。これに対して、芸北地域では誘導看板(案内板)やスキー場・観光地等の案内・広告が目立っており、域外からの観光客を意識していると考えられる。豊平地域では、地形的にわかりにくい特性から、観光資源・飲食施設等の情報がこまめに表示されている。

(3)デザイン

「屋外広告物現況調査」で撮影されたサイン等について、旧町ごとに特徴を把握した。比較的代表的と考えられるサインについて分類・整理した結果、

- ①国際性←→地域性
- ②自然的←→人工的

の2つの軸で整理すると各地域の特徴が明かになった。それぞれの地域の特性は以下のとおりである。

(芸北地域)

他の地域に比べて「おしゃれ」なデザインが多く、英語表記も多く用いられている。全体に自然的な素材が使用されており、観光客を意識した工夫が積み重ねられてきたことが伺える。

(大朝地域)

他の地域に比べて場所・施設等を直接的に案内するサインが多く、デザイン性は低い。色彩的には赤・黄色が多様されており、目立つことが優先されていると思われる。英語表記はほとんどない。

(千代田地域)

市街地が形成されているため、サービス業・製造業等の施設サインが多い。色彩的には白地に青文字、青字に白文字などが多用されており、オフィシャルな印象のサインが多い。自然的な素材を使用したものは少ない。

(豊平地域)

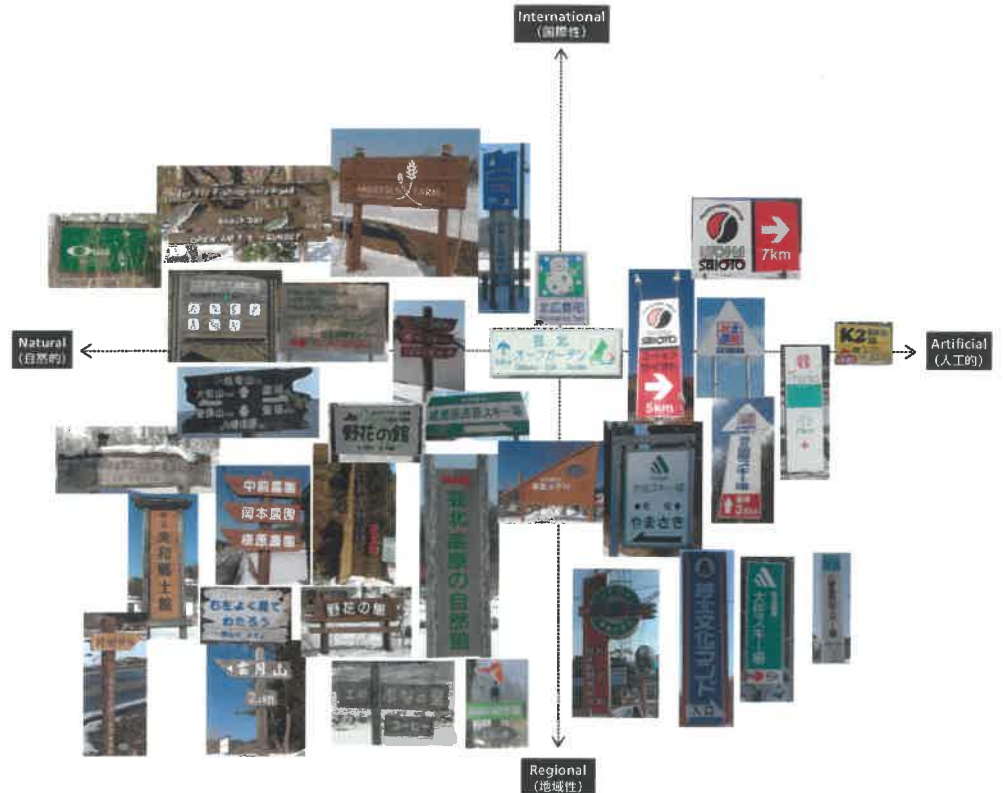
観光客を対象としたサインが多いと思われるが、芸北地域とは対照的なデザインである。自然的な素材が多く使用され、小振り得手書きのものが多く、手作りの雰囲気を感じられる。来訪者のわかりにくさを解消するため個々の施設・店舗等が独自に設置していると考えられる。英語表記はほとんどない。

図 I -11. 地域別のサインの特徴

屋外サイン・デザインの傾向

芸北地域

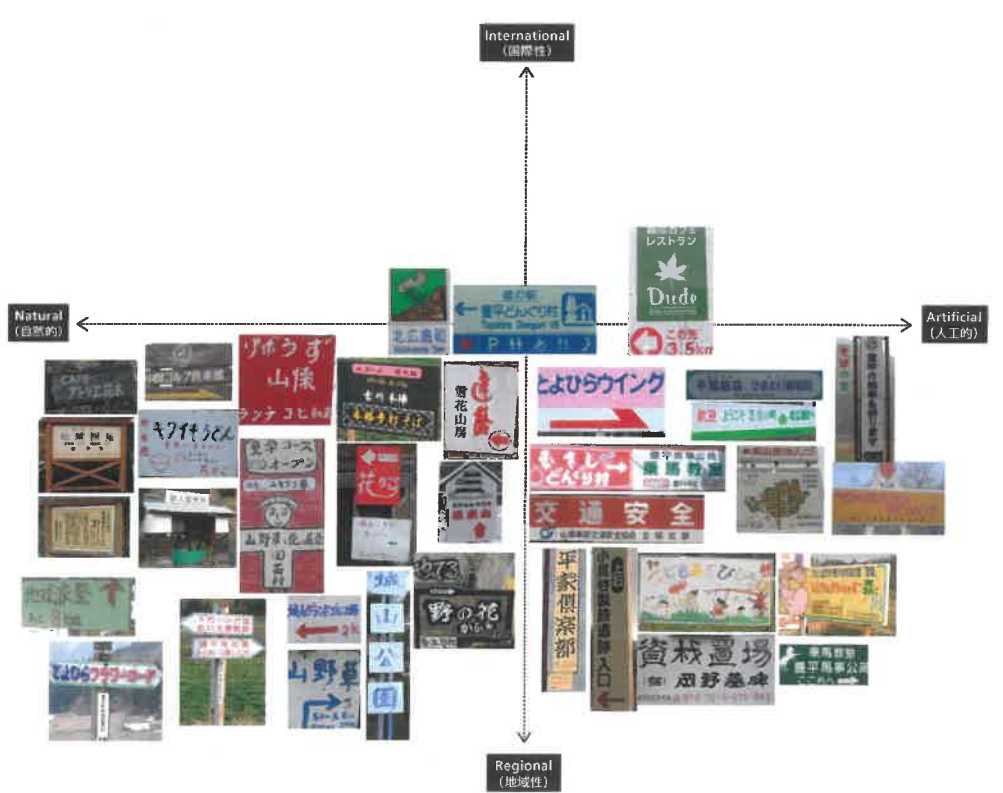
- 観光客を誘引する「自然」や「スポーツ」のイメージを強調
- 木の板に白い文字
- 英語のみのサインもある



屋外サイン・デザインの傾向

豊平地域

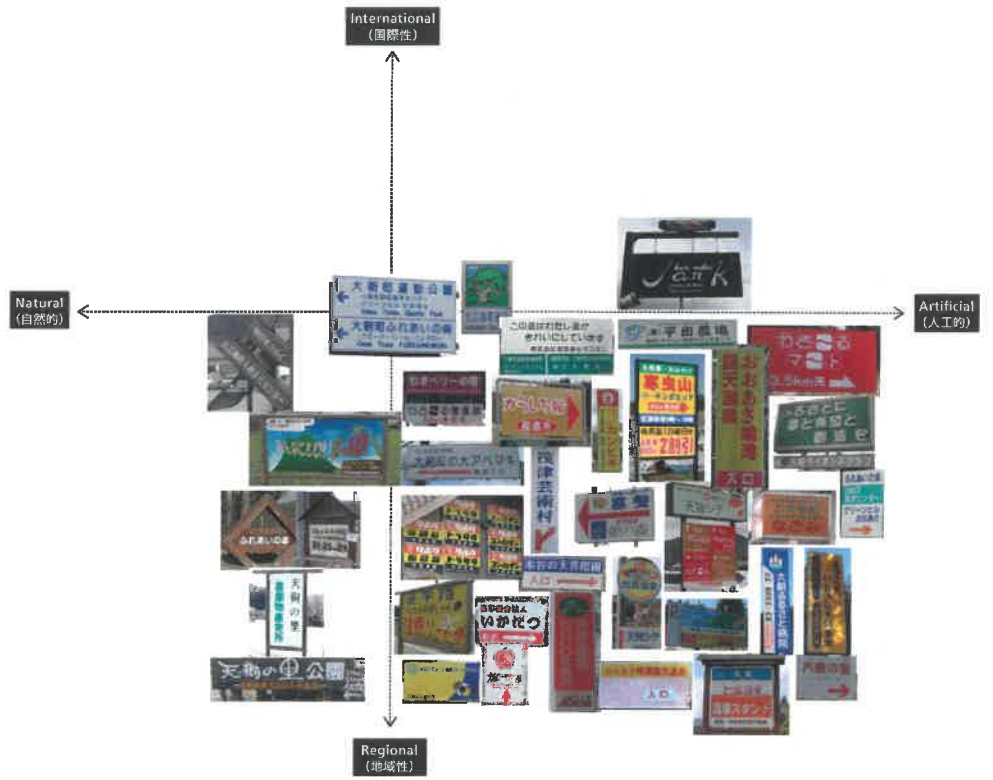
- 比較的小ぶりな手書き、手づくりのサインが多い。来訪者に親朴さや手作り感を訴求
- 英語表記はほとんどない



屋外サイン・デザインの傾向

大朝地域

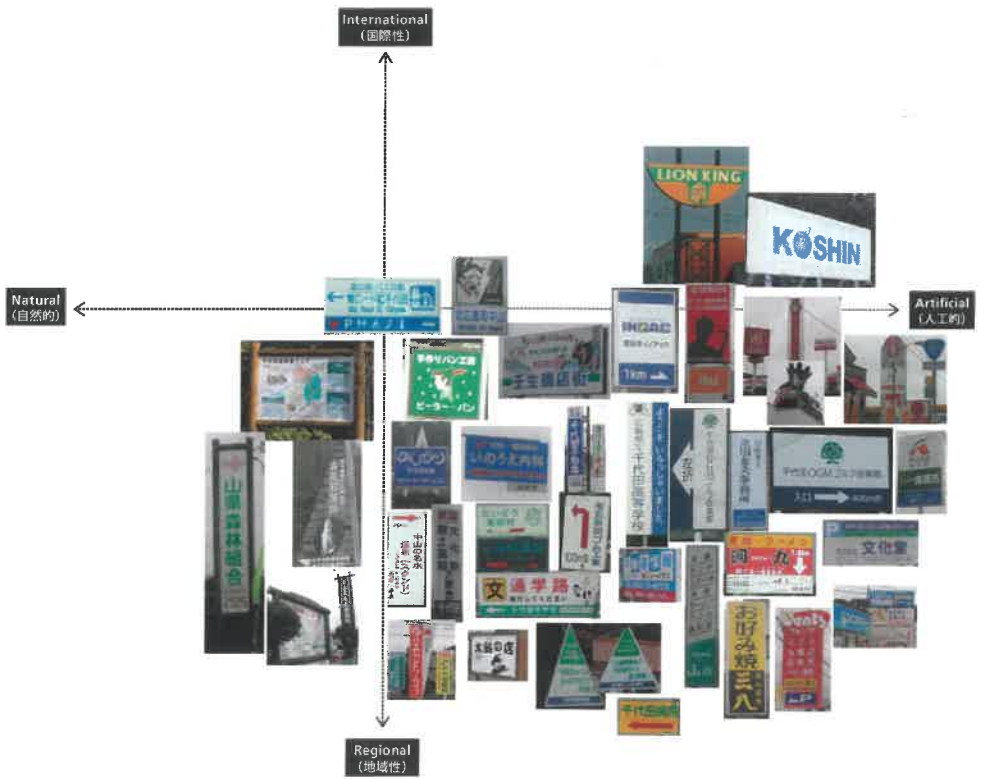
- イメージ形成よりも場所案内を優先
- 赤と黄色を多用、赤矢印
- 英語はほとんどない



屋外サイン・デザインの傾向

千代田地域

- サービス業や製造業のオフィスのサインが多い。白地に青文字、青地に白文字。
- 商業施設は赤を多用
- 丸太を用いたサインがいくつかある。



2-2. 現地調査による確認

「屋外広告物現況調査」では、各サインの置かれた周辺状況、設置密度などが不明であるため、現地調査による補足・確認を行った。実施日は平成24年5月10日（木）から12日（土）。

(1) 誘導サイン

- ・北広島町は町域が広く、市街地・集落が点在していることから、設置数が与える印象とは異なり、誘導サインが不足しているという実感を受ける。
- ・道路の段階構成（高速道路、主要幹線道路、地域内道路）に応じた適切な誘導サインが設置されておらず、混乱するケースが見られる。
- ※ 合併前の旧町名が使用できなくなっているが、そのまま表示されているケースもあり、混乱がある。ただし、大きなゾーンを案内するには旧町名が有効である。
- ※ 短時間で進行方向を判断する必要がある高速道路の出口、主要幹線道路の交差点などで、表示する情報のレベルが混在しているため混乱、危険を生じさせるケースが見られる。交差点のランクに応じて表示すべき情報を整理することが必要である。逆に、誘導したい主要地点、観光資源などの情報が適切に表示されていないケースも多い。
- ・主要な幹線道路であっても見通しの悪い山間部を走る区間が多く、現在地がどこか、正しい方向に向かっているかなどが把握できずに不安を感じる区間が多い。カーナビゲーションでは地名が表示されるものの、現在地が合っているか確認できない場合が多い。



図 I-12. 誘導サインの現況

(2) 宣伝（案内）サイン

箇所数として最も多い民間の宣伝サインは、都市近郊の幹線道路沿いに見られるように大規模な広告が無秩序に立地して景観を大きく乱している例は少ない。ただし、スキー場、ゴルフ場などのレジャー施設の宣伝サインが景観を乱している例が見られる。

高速道路インター出口、主要道路の交差点などでは、宣伝サインが誘導サインと混在して無秩序に設置され、結果的にサインの機能を損ねているケースが目立つ。市街地・集落以外のエリアでは景観を阻害するような宣伝サインはほとんど見られない。その中では、沿道の家屋壁面に取り付けられた宣伝看板が見られるが、繰り返し目にするものの、既に設置主体が廃業したものが残されている場合もある。

公的主体が設置した「総合案内版」については、合併により設置主体が異なっているもの、設置当時と状況が変わり意味を持たないもの、適切な位置に設置されておらず役割を果たしていないもの、メンテナンスがなされていないものなどが見られ、表示内容もバラバラである。



図 I-13. 宣伝(案内)サインの現況

(3) 啓発サイン

啓発サインは比較的頻繁に目にする印象がある。特に、町の境界や旧町の境界に設置されているものは、規模が大きく、しっかりと作られているため、目立ちやすく存在感がある。ただし、表示内容が犯罪防止などに偏っており、誰に何を伝えるためのサインか意味不明なものがある(北広島町は犯罪が多く危ない地域であるとアピールしているように受け取られる可能性もある)。

個別のサイン(不法投棄禁止、飛び出し注意など)は個別の事情で設置されているが、設置時より時間が経過し、老朽化も加わって効果があるか疑問をもたれるものがある。



図 I-14. 啓発サインの現況

2-3. 屋外サインの現況から 見た計画上の課題

現地調査によって確認できるとおり、個別箇所で現在の屋外サインの設置のされ方、サインの内容や表現について問題点は見られるものの、広大な町域の中では著しく地域の環境、景観を乱しているものではなく、屋外サインの設置者がそれぞれの立場で工夫、配慮することで、良好な自然景観、田園景観、街並景観などを守りながら住民、来訪者などにとって魅力ある地域をつくりあげていくことが可能であると思われる。サイン計画の作成にあたって考慮すべき課題としては、次のものが挙げられる。

(1) まちづくり(観光)に係るマスタープランの必要性

屋外サインは誘導、案内などの目的を実現するための視覚的手段であり、それ自体が目的ではない。従って、「何のために、誰に対して、どのような情報を伝えるか」という基本的な考え方を明確にする必要がある。

特に、北広島町においては、恵まれた自然環境・文化的資源などを活かして、交流人口の増加による地域活性化を図っていくことが重要な課題であると考えられ、そのために来訪者をどのように誘導するかという戦略的な方針が求められる。

(2) 屋外サインのあり方についての共通認識の必要性

現地調査において目に付いたのが、啓発サインである。これらは、ライオンズクラブや公益的な団体が幹線道路沿いの適地に手続きを踏んで設置したものが多く、サイン自体もしっかりとした構造・デザインであり、目的自体も社会的に問題がある訳ではない。ただし、そこに記載された内容が、幹線道路沿いにおいて表示する内容としてふさわしいか、疑問があるものが多い。

同様に、主要交差点における誘導サインと宣伝(案内)サインの混在についても、サインの役割についての共通の理解が存在しないため、個別の事情でサインを掲示する結果となっていると思われる。これは、個別の主体の努力では限界があり、関係者が公共空間を利用する立場から、サインのあり方についての共通認識をつくりあげていく必要がある。

(3) 合併による広い町域の一体化と個性化の必要性

北広島町は、それぞれ個性を持つ旧4町が合併し、旧町単位での生活・文化、環境・景観などの特徴を有している。現行制度では合併前の旧町名を正式な道路標識として用いることは難しいが、北広島町としての一体性を担保しつつ、旧町単位のアイデンティティを表現していくための工夫が求められる。

(4) 地域の景観を想像するデザインの必要性

北広島町においては、地域活性化・観光振興などの場面において地域の資源が十分に活かされているとは言えず、これらを活かすためには適切な屋外サインを設置していく必要がある。また、屋外サインは良好な自然景観・田園景観の中に設置され、かつ、適切に誘導するためには視認性に優れていることが求められる。さらに、北広島町において設置する屋外サインには、地域の景観を創造する質の高いデザインが求められる。

第I部 サイン基本構想

3. サイン計画の目標と対象

3-1. サイン計画の目標

北広島町における地域特性、屋外サインの現況、まちづくりの方向性を踏まえて、北広島町のサイン計画の目標を次の通り設定する。

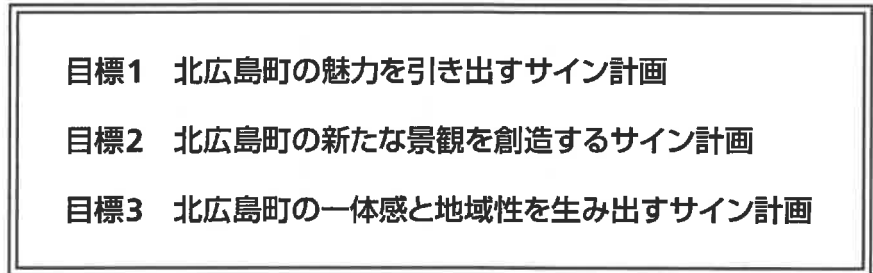


図 I-15. 北広島町のサイン計画の目標

(1) 北広島町の魅力を引き出すサイン計画

北広島町のまちづくりは、「豊かな地域資源の活用」が基調とされており、今後、多様な地域資源に磨きをかける（魅力化）ことや、多様な地域資源を一体として捉え（複合化、構造化）、地域の総合力を発揮してことが求められている。

これをサイン計画の側面では、「多様な魅力を伝える手段としてのサインシステムの構築」として捉え、「来訪者の視点に立った、わかりやすいサインシステム」、「町内での回遊を促し、多様な魅力を体験させるサインシステム」を整えていく。

(2) 北広島町の新たな景観を創造するサイン計画

北広島町のまちづくりには、「豊かな自然環境、地域景観の保全と活用」が不可欠であり、そのためには、「屋外サインが新しい景観づくりを担う」ことや「地域の様々な主体が共通の理解をもち、景観づくりの作法を共有する」ことが求められている。

これをサイン計画の側面では、「新たな地域景観を創造するデザインシステムの構築」として捉え、「誰もが参加し実践できる」ことに配慮しながら、「地域景観を活かし、向上させる質の高いサインデザイン」や「サイン設置者がそれぞれの立場で景観づくりに参加できる“作法”の共有」を進めていく。

(3) 北広島町の一体感と地域性を生み出すサイン計画

北広島町のまちづくりには、「合併した旧4町の一体化と地域の個性のブラッシュアップ」が重要であり、そのためには、「北広島町としての一体性を町民・来訪者に理解できるようにする」ことや「合併旧町の個性を活かし、魅力を高める」ことが求められている。

これをサイン計画の側面では、「地域としての一体感と個性を表現するサインシステムの構築」として捉え、「北広島町としての一体性を表現する表示内容与设计」や「地域ごとの個性・魅力を表現する表示内容与设计」を進めていく。

3-2. サイン計画の対象

北広島町のサイン計画の目標に沿って、サイン計画の対象を次の通り設定する。

表 I-6. 北広島町のサイン計画の目標と対象

	サイン計画の目標	サイン計画の対象
目標1	○北広島町の魅力を引き出すサイン計画 ・多様な魅力を伝える手段としてのサインシステムの構築 ・町内での人々の回遊を促し、多様な魅力を体験させるサインシステム ・来訪者の視点に立った、わかりやすいサインシステム	○道路空間における公共サインのシステム化 ・道路の段階構成に応じた適切な誘導 ・まちづくりの方針を踏まえた戦略的な誘導（町内主要ルートの設定と効果的な誘導） ・利用者の視点に立った適切な情報の提供（広域案内、道路上の誘導表示、地域資源に関する適切な情報提供など）
目標2	○北広島町の新たな景観を創造するサイン計画 ・新たな地域景観を創造するデザインシステムの構築 ・地域景観を活かし、向上させる質の高いサインデザイン ・サイン設置者がそれぞれの立場で景観づくりに参加できる「作法」の共有	○交差点などにおける屋外サインの集合化と場所の修景 ・公共・民間サインの交差点などでの集合化 ・交差点などにおける修景の推進（老朽工作物撤去、除草、緑化、電柱移設など） ・モデル（模範、優良事例）となる屋外サインの発掘・推奨
目標3	○北広島町の一体感と地域性を生み出すサイン計画 ・地域としての一体感と個性を表現するサインシステムの構築 ・北広島町としての一体感を表現する表示内容とデザイン ・地域ごとの個性・魅力を表現する表示内容とデザイン	○総合案内サイン、地域名（支所名）サイン ・総合案内サインにおける地域の一体感の表現 ・地域名（支所名）表示に関するルールづくり ・ロゴ、シンボルマーク、カラーを用いた4地域の表現

第 I 部 サイン基本構想

4. サイン基本構想

4-1. サイン計画の前提

(1) 地域のゾーニング

北広島町各地域を、景観や観光の特性にもとづき「高原ゾーン」、「石見街道ゾーン」、「里山ゾーン」として位置付け、サイン計画の前提とする。

表 I-7. 地域のゾーニング

区分	事例	備考
高原ゾーン	芸北地域においては、高原らしい「のびやかで広がりのある」景観が形成されており、スキー場、民宿など自然資源を活用した観光スポットが数多く存在している。八幡湿原、聖湖などの観光資源がある。	
石見街道ゾーン	大朝地域および千代田地域においては、江の川や街道に沿って集落、市街地が発達する。世界遺産である「壬生の花田植」、国の名勝である吉川元春館跡庭園などの歴史文化資源がある。また、「道の駅舞ロード千代田IC」の拡充が計画されている。	
里山ゾーン	豊平地域においては、周囲を山々に囲まれた起伏に富んだ丘陵地があり谷筋が深く集落が点在している。「道の駅豊平どんぐり村」を始め「そばの里」の取り組みがある。	

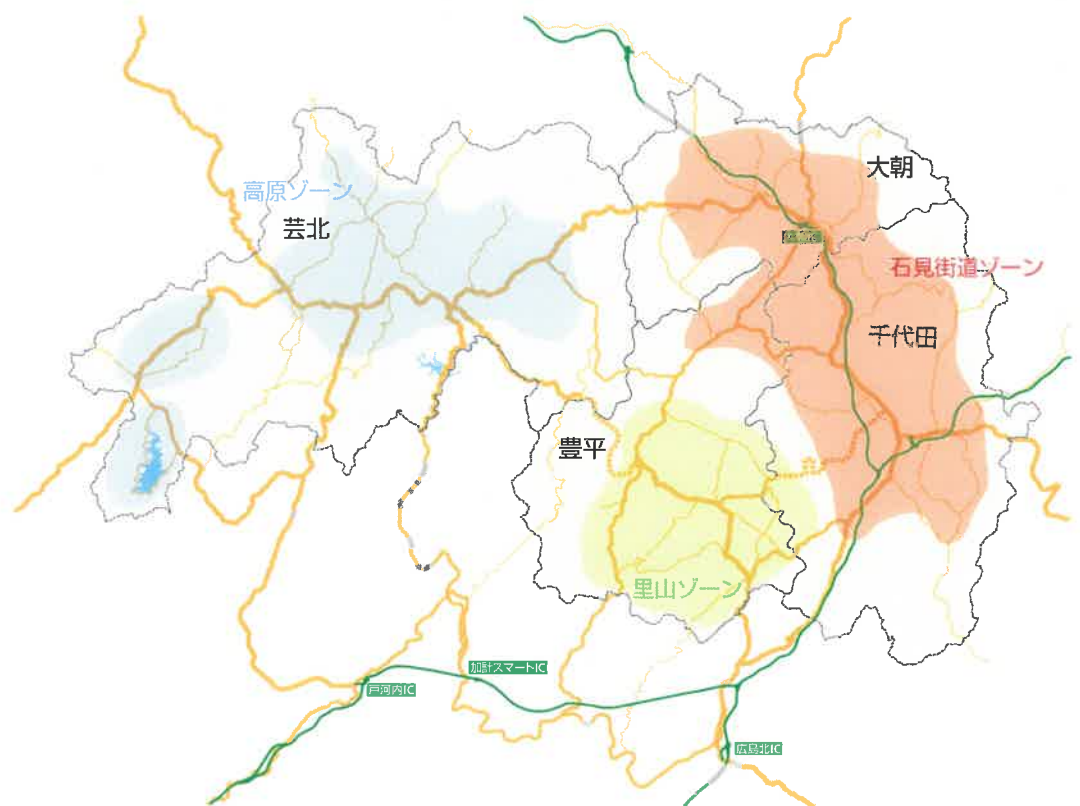


図 I-16. 地域のゾーニング

(2) 町内主要ルートの設定

北広島町の「高原ゾーン」、「石見街道ゾーン」、「里山ゾーン」を結びつける回路として「芸北・大朝ルート」、「大朝・千代田ルート」、「千代田・豊平・芸北ルート」を位置付け、サイン計画の前提とする。

(3) 幹線道路の位置づけ

北広島町に関わる幹線道路を、国土幹線、広域幹線、地域幹線として位置づけサイン計画の前提とする。国道433号は狭隘区間があることから来訪者の利便を考慮しサイン計画では幹線道路として位置づけしないものとする。

表 I -8. 幹線道路の位置づけ

区分	事例	備考
国土幹線	中国自動車道	
広域幹線	国道186号、国道191号、国道261号	
地域幹線	芸北・大朝ルートを構成する道路(県道307号、県道40号、県道79号)、千代田・芸北・豊平ルートを構成する道路(芸北広域農道、県道316号など)、戸河内ICおよび広島北ICからのアクセス道路(県道11号、県道40号)	

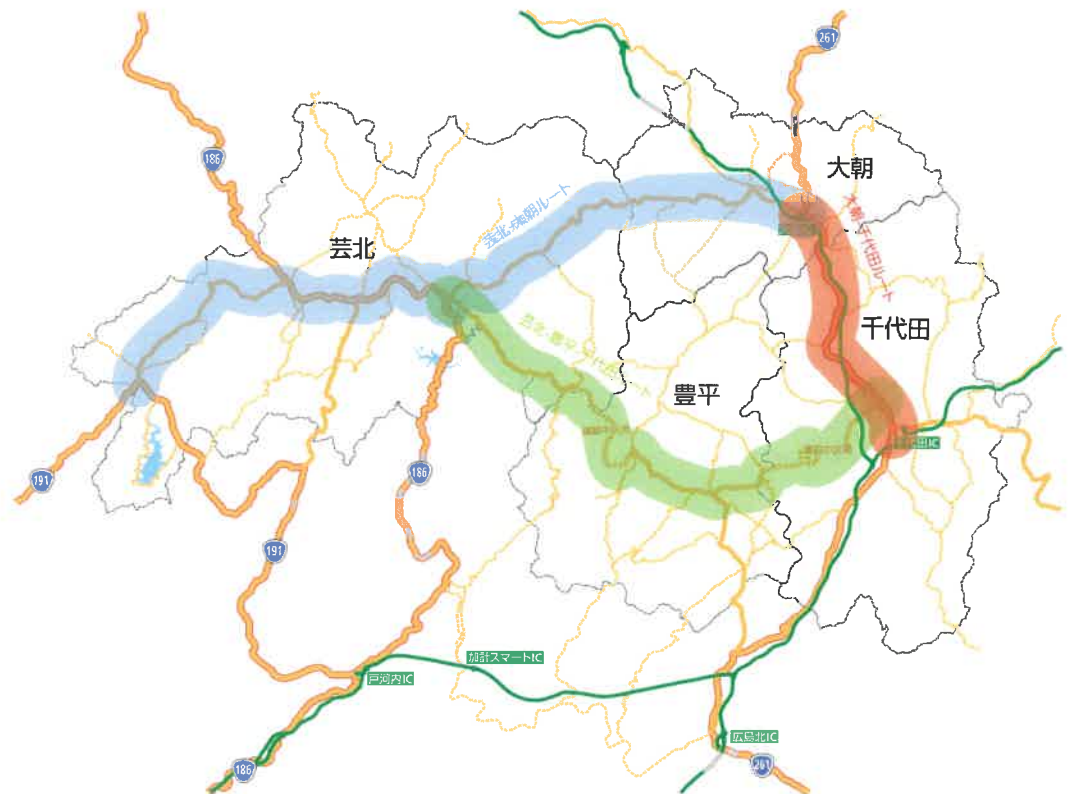


図 I -17. 町内循環ルートの設定と幹線道路の位置づけ

(4) 交通結節点等の位置づけ

幹線道路の位置づけに沿って、北広島町内外の交通結節点等を「国土交通結節点」、「地域交通結節点」、「主要交差点」、「町外の主要交差点」、「北広島町のエントランス」に区分しサイン計画の前提とする。

表 I - 8. 幹線道路の位置づけ

区分	事例	備考
国土交通結節点 (H)	中国自動車道の出入口 (千代田IC周辺、大朝IC周辺)	2地点
地域交通結節点 (A)	中心的な市街地、集落の交差点およびその周辺	5地点
主要交差点 (B) (C)	地域幹線等の分岐点およびその周辺 町外については (C) と略表記する。	12地点
北広島町の エントランス (E)	広域幹線、地域幹線上の北広島町への入口	7地点

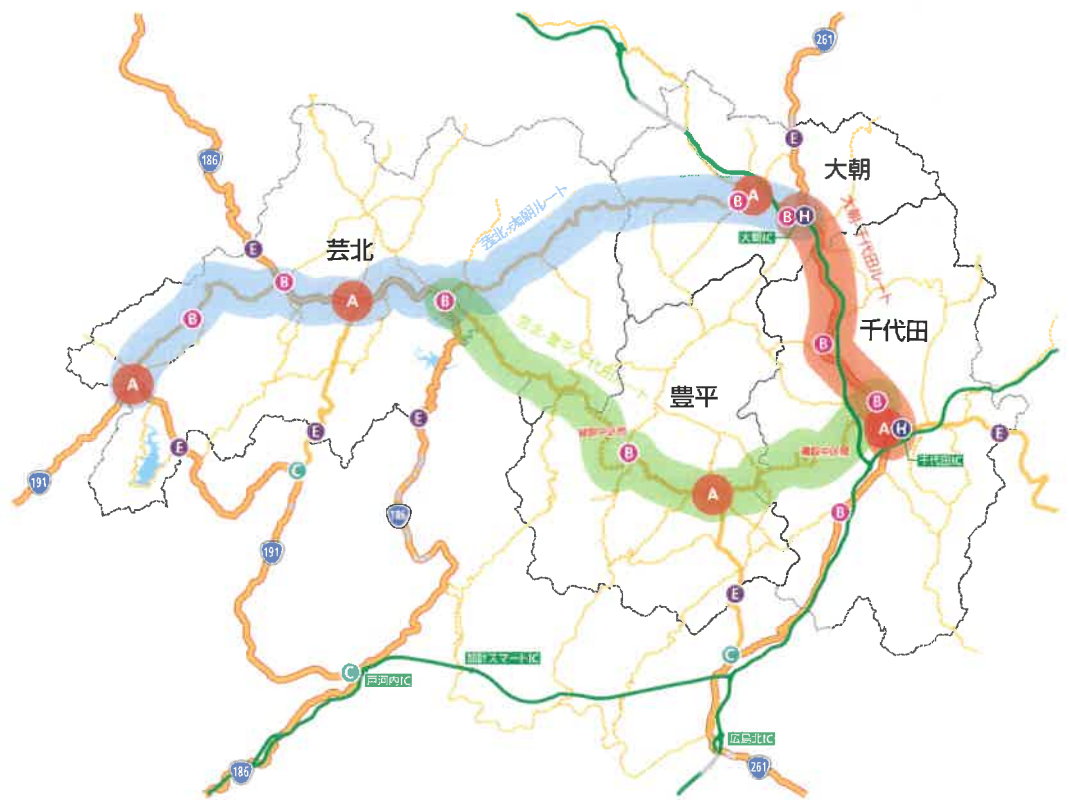


図 I - 18. 交通結節点等の位置づけ

4-2. 北広島町におけるサインの体系

北広島町における屋外サインを「公共サイン」と「民間等サイン」に区分する。「公共サイン」については、「総合案内サイン」、「誘導サイン」、「地域名サイン」、「拠点サイン」に区分し、町または関係機関が景観形成に資する屋外サインの整備を推進する。

「民間等サイン」については、「宣伝サイン」、「啓発サイン」に区分し、民間事業者または町内の団体が、町などの助言を得て景観に配慮した屋外サインの整備を推進する。

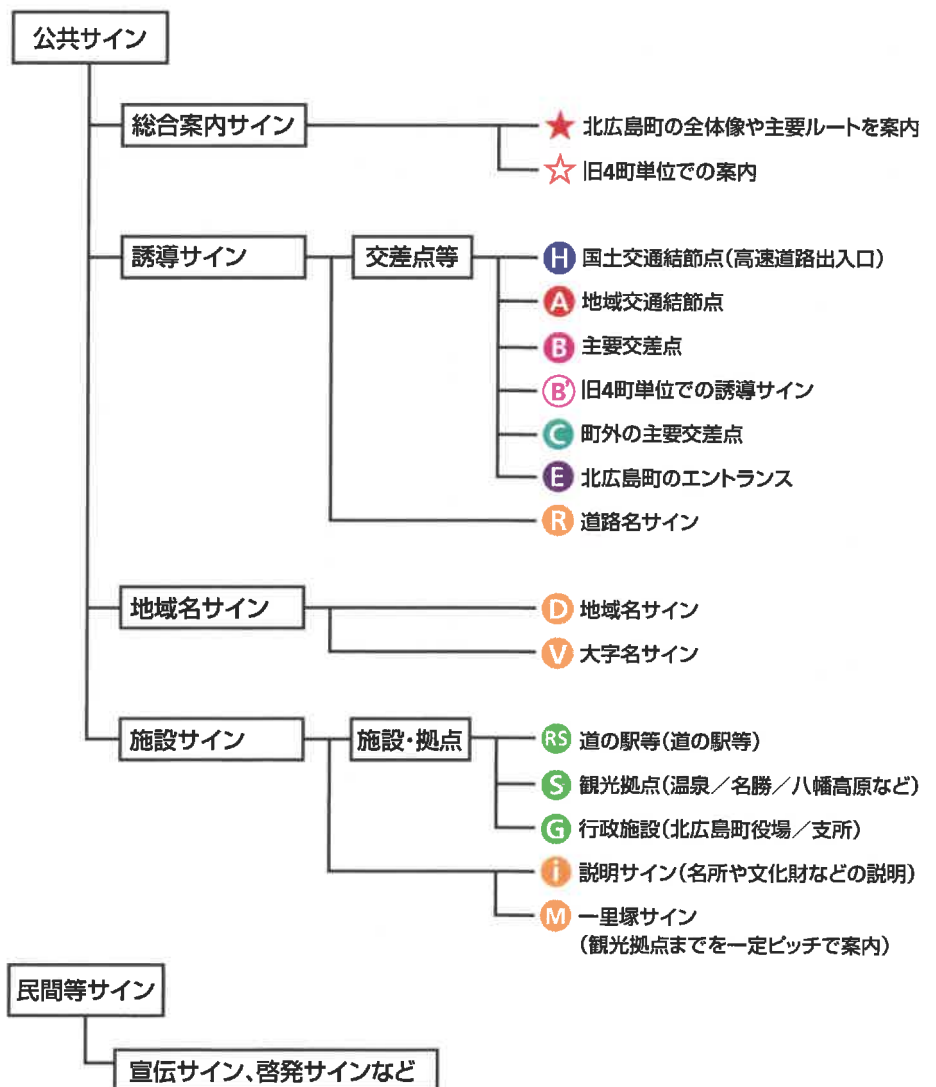


図 I -19. 北広島町におけるサインの体系

4-2. サイン整備の基本方針

「公共サイン」については、来訪者などを誘導するサインシステムを段階的に構成し、地域名サイン、拠点サインとともに、町による整備、国道・県道の案内標識の改訂要請などを推進する。

「民間等サイン」については、来訪者が行き交う国土交通結節点や地域交通結節点において、景観に配慮しながら「宣伝サイン」の集合化を促進する。「啓発サイン」については効用の再点検、老朽化したものの撤去などを促進する。

表 I -10. 公共サインの整備方針

区分		整備方針	適要
総合案内サイン		北広島町の全体像や主要ルートおよび観光拠点を示す。	道の駅および道の駅に準ずる施設に配置する。
誘導サイン	国土交通結節点(H)	現在地と目的地の広域的な位置関係を示す。 千代田ICおよび大朝ICの周辺で、北広島町の玄関口にふさわしい景観形成を図る。	国道案内標識の改訂等を要請する。
	地域交通結節点(A)	進行方向の地域名(支所名)を示し、観光拠点等へ誘導する。	中心的な市街地・集落等の交差点周辺に配置する。
	主要交差点(B)	進行方向の地域名(支所名)を示し、観光拠点等へ誘導する。	地域幹線からの分岐点に配置する。
	旧4町単位での誘導サイン(B')	旧4町単位で誘導したい観光拠点等へ誘導する。	適宜配置する。
	町外の主要交差点(C)	北広島町への道筋を示す。	国道案内標識の不足内容を確認し改訂等を要請する。
	町のエントランス(E)	北広島町への到着や帰還を示す。	国道、県道の案内標識の絵柄の統一等を要請する。
	道路名サイン	町内主要ルートに愛称を設定し、誘導の基線とする。	適宜配置する。
地域名サイン	地域名サイン	現在地を地域名(支所名)で表示する。	既存看板等の活用を含め適宜配置する。
	大字名サイン	現在地を大字名で表示し、カーナビとの照合を容易にする。	同上
施設サイン	施設サイン	道の駅等、観光拠点、役場・支所について施設名を表示する。	適宜配置する。
	説明サイン	名所や文化財の由来等を説明する。	同上
	一里塚サイン	観光拠点までの経路を一定のピッチで誘導する。	例：八幡高原への経路案内

表 I -11. 民間等サインの整備方針

区分	整備方針	適要
宣伝サイン	国土交通結節点、地域交通結節点で、宣伝サインの集合化を促進する。	スキー場、ゴルフ場、商業施設、医療施設等への案内等
啓発サイン	啓発サインの効用を再点検する。 老朽化サイン等を撤去する。	標語、スローガンの掲示等

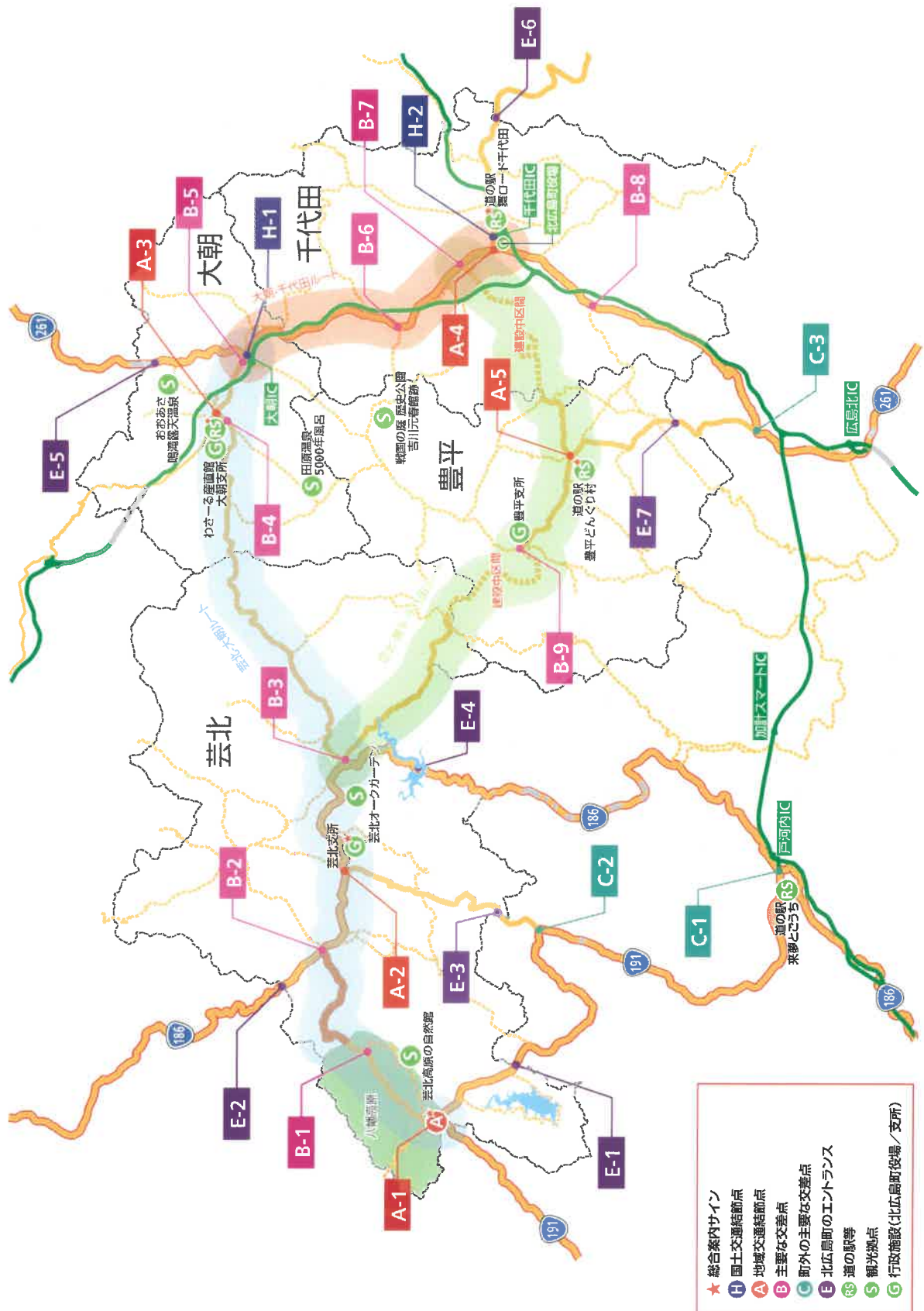


図 I-20. 屋外サインの整備・誘導地点